



天使大学チャペルステンドグラス

JCNA第62回全国大会を終えて

会長 清水 裕子

2024年10月9日、フランシスコ教皇は、私たちの顧問司教でおられるタルチシオ菊地功大司教さまに枢機卿就任をご指名されました。12月8日に枢機卿会議で任命式が行われます。私たちはこの慶びに祈りの花束をもって、お祝い申し上げます。

さて、本会の全国大会は、2019年の長崎支部での第3回3団体合同全国大会以来でした。この5年間のパンデミックを超えて、久しぶりの会員の集いのできたことを感謝いたします。実際には、本会だけの大会は、2020年の名古屋支部主催の大会以来となります。札幌支部は往年のベテラン揃いでしたから、この久しぶりの大会といえども、素晴らしい大会を準備くださいました。大会テーマは、「命へのいつくしみ—カトリックナースの使命—」を考える」でした。大会に寄せて、次のメッセージをお送りしました。

【JCNAが所属する国際組織CICIAMSのコーシ・ムステワ会長は、2023年10月のニュースレターにおいて、1935年第2回CICIAMS世界総会でのピオ11世の言葉を引用され、カトリック看護師は司教や司祭と協力して「キリスト教の精神性と技術的専門知識を高め、その成果は患者にキリストをもたらすこと」であり、「患者の身体に健康をもたらすだけでなく、最も重要なのは、魂に命を吹き込むことである」と述べています。1998年当時のラッツィンガー枢機卿（後のベネディクト16世教皇）の説明によると、その使徒職を果たすためには「毎日の聖書朗読、毎週の聖体拝領、ロザリオ、断食、告解」などを含む「福音的生活」「宣教的な生活」が大切であり、それをもって『愛』を人生の一部とする「慈善と奉仕」を行うことであると述べられました。

本会会員の中には洗礼を受けておられない方もお迎えしていますが、カトリックの信心生活が共にできること、愛による分かち合いができることなどが重要です。私たちの仕事の中では、矛盾や限界に立ち往生することもあります。主が適切に私たちを用いてくださることを信じながら、今大会が、新しい一歩をすすめる機会になったことと期待いたします】、と結びました。

今大会を終えて一言で所感を表現すれば、会の本質的な空気感に触れることができたといえます。支部会員の不断のご尽力とご奉仕に深く感謝いたします。来年は福岡でお会いしましょう。

また、以下世界の動きについて、CICIAMSコーナーでご紹介しましたが、JCNAはアジアでの役割や世界での役割が求められてきました。世界で多くの命が奪われています。私たちは世界の人々と連帯して祈っています。どうぞ、各支部でも引き続き祈りの時間を大切をお願い致します。

◆みことばからの照らし

本部顧問司祭(名古屋支部顧問司祭) 暮林 響

朝の祈りのへブライ書(2-9・10)から。

(2024年9月14日開催の本部役員会議講話)

「イエスが死の苦しみによって栄光と誉れの冠をお受けになったことを私たちは知っている。その死は神の恵みによって全ての人のためのものであった。神が多くの子を栄光に導くために、その救いの創始者を多くの苦しみを通して全うさせたということは、万物の存在の目的であり原因でもある方として相応しいことであった。」

今日は十字架の称賛というお祝いの日です。私たちがそれぞれ抱えている困難を十字架とみます。イエスの十字架には、私たちが日頃背負っている十字架も全て持っていて、イエス様はそれを抱きしめ、抱きとめ、私たちが自分の中で否定し、苦しいから、なければよいと終わらせようとするのも全て受け止めて、私たちに尊いものに高めていこうとしてくれます。そこには癒やしがあるかもしれませんが、時には私たちが抱え続ける痛みを全て理解し、共にそれを背負ってくださるイエス様に信頼を込めて、私たちの奉仕を続けていくことができるように、恵みを願いましょう。主イエス・キリストによって アーメン

第 62 回全国大会終了

JCNA 第 62 回全国大会が、2024 年 8 月 24 日（土）・25 日（日）に「命へのいつくしみ -カトリックナースの使命-」と題して札幌支部担当で開催されました（佐藤昇子支部長、中村敦子実行委員長）。大会には各支部からの参加者・顧問司祭・聴講あわせて 66 名の参加があり、カトリック北 11 条教会と天使大学の 2 会場で行なわれました。1 年前の 2023 年 6 月から実行委員会と札幌支部会員で準備され大会を開催できましたことを感謝申し上げます。

一日目は、開会式に引き続き、勝谷太治司教（札幌教区）による基調講演が「教会の本質的な使命に属する活動」と題して、カトリック北 11 条教会で行なわれました。講演では小さきものに寄り添うとは、相手の立場に立つとはどのようなことかについてご自身の体験から話されました。そして、私たちが病人に寄り添いその回復のために看病することにより、自分を大切にしてくれる人のぬくもりを感じ、神の愛を実感出来るならば、イエス様の癒しの業と本質的に同じであると話され、カトリック看護師の役割について考えさせられました。

カトリック北 11 条教会で勝谷司教司式による共同ミサが捧げられた後、天使大学において田畑邦治天使大学学長より「いのちあるものの内なる希望に-神の子のいのちの哲学-」と題して教育講演が行なわれました。世界戦争の危機をはらんでいる現在、弱者が受けている非人道的な状況は「絶望」的というほかはなく、福音から「希望」を証言できるかという問いに、聖書の言葉と哲学的な意味から話されました。その中で、「およそ生ける者のなかにつらなる者には望みあり」（コヘレトの書 9・4）との言葉から、人との関わりが希望に繋がるという示唆を得ることが出来ました。

続いて、天使大学において 2 名の方から体験発表が行なわれました。一人目は公益社団法人北海道社会福祉会道央地区支部長の菅しおり氏より、「神様に呼ばれて」と題して発表されました。ご自身の幼少期の体験と患者との関わりから、神様や人との出会いの不思議を感じました。また、神様から与えられた使命があり、呼びかけられてきたという菅氏の体験を感じる講話となりました。二人目は臨床パストラル教育研究会事務局長スーパーヴァイザーの山下清美氏より、「いま・ここ・わたし=臨床パストラル」と題して発表されました。ご自身の体験と出会った方との関わりを通して話され、スピリチュアルな痛み・叫びに寄り添うとはどのようなことかを考える機会になりました。最後に、看護の現場で人にしか出来ないこと、あえていうなら「スピリチュアルケア」を見つめ直し、共に歩むことが出来たらとの願いを述べられました。

一日目の最後には会場をホテルに移して懇親会が行なわれました。懇親会ではこれまで JCNA に貢献されました薄島和子元会長、山口郁乃前会長、札幌支部の沢禮子氏と近藤潤子氏に長年の感謝の気持ちを込めて花束が贈呈されました。また、各支部から個性的な紹介があり、札幌支部からはベトナムカトリック青年の祈りのダンスが披露され、札幌支部会員や参加の皆さまと楽しいひとときを過ごしました。

二日目は、これまでの講演と体験発表をふまえて、8 グループに分かれてカトリックナースとしての使命について語り合う機会をもちました。話し合いではカトリックナースとしての葛藤や喜びを共有することができ、また、同じ目標を持つ会員同士の繋がりを実感できる分かち合いとなりました。

大会の最後に、天使大学チャペルにおいて派遣の共同ミサが行なわれました。また、清水会長より佐藤昇子札幌支部長、札幌支部顧問司祭のケン神父に感謝の気持ちを込めて花束が贈呈されました。久しぶりの皆様との出会いに感謝し、心を込めて準備し関わってくださった札幌支部の皆様にご挨拶申し上げます。



佐藤札幌支部長が摘んだお土産のラベンダー



図1 開会ミサ(勝谷司教司式)



図2 天使大学田畑学長の教育講演



図3 山下清美臨床パストラルスーパーバイザーの講話



図4 懇親会でのベトナム青年のダンス



図5 派遣のミサ(ケネス・G・スレイマン神父、暮林神父、鶴巻神父)



図6 派遣ミサ祭壇



図7 参加者集合写真



レジェンド
沢禮子 Sr.
→



図8 札幌支部の会員
ありがとうございます→

2024 年度 臨時総会

開催日時: 2024 年 8 月 24 日(土)12 時 45 分～13:45 分、

開催会場: 天使大学 6101 教室、ハイブリッド

出席者:

No	総会参加形態	役職	支部	氏名	No	総会参加形態	役職	支部	氏名
1	出席	支部長	札幌支部	佐藤昇子	14	出席	会長	大阪高松支部	清水 裕子
2	出席	支部長	仙台支部	古閑 睦	15	出席	副会長	長崎支部	石岡ヒロ子Sr.
3	出席	支部長	東京支部	千田 宏子	16	オンライン	財務	東京支部	山口 道子
4	出席	支部長	横浜支部	井坂 玲子	17	オンライン	広報	仙台支部	織井 優貴子
5	出席	支部長	名古屋支部	鈴木 光恵	18	出席	広報	長崎支部	水浦 ふじ子Sr.
6	出席	支部長	京都支部	西川加之子	19	出席	HP	札幌支部	巻島 愛
7	出席	支部長	大阪高松支部	井上理恵子	20	出席	顧問司祭	本部・名古屋支部	パウロ暮林 響Fr.
8	出席	副支部長	大阪高松支部	河上 真理	21	出席	顧問司祭	長崎支部	ミカエル鶴巻 健二Fr.
9	オンライン	支部長	広島支部	阿川 昌子	22	出席	顧問司祭	広島支部	ヨゼフ山口 道晴Fr.
10	出席	支部長	福岡支部	杉本 美春	23	出席	顧問司祭	大分支部	ヨハネ崔 在景Fr.
11	出席	副支部長	大分支部	佐藤 優加	24	出席	顧問司祭	札幌支部	ケネス・G・スレイマンFr.
12	出席	支部長	長崎支部	山本ふみりSr.	25	陪席	前会長	広島支部	山口 郁乃
13	出席	支部長代理	鹿児島支部	重留万希子	26	陪席	看護大学関係者	元清泉女学院大学	藤井 智恵美
					27	陪席	看護大学関係者	清泉女学院大学	稲葉 景

議決権代理執行者 大分支部: 阿南幸子支部長→佐藤副会長、鹿児島支部: 澤やえ子 Sr.→支部長代理

欠席者 堀田光子

議長・書記の選任: 会長から、議長を Sr 石岡ヒロ子副会長、書記を Sr 水浦ふじ子広報担当に指名され、了承された。オンラインは、暮林響本部顧問司祭が対応された。会議準備にあたり、大阪高松支部得居みのり会員、札幌支部会員が奉仕された。

会議の成立: 議決権のある支部 13 名、本部 2 名以上が出席であるため、総会は成立した。

祈り: 開催にあたり、JCNA 会員の祈りを唱和した。

配布物 ①臨時総会資料、②各支部に現在在籍会員数に応じて「会員手帳」が配布された。

尚、「会員手帳」は支部に在籍する会員数分を総会出席の支部長(名古屋、新潟を除く)が持参された。

後日、名古屋支部分は暮林師から、新潟分は会長からそれぞれ送付された。

【総会概要】

はじめに自己紹介が行われ、参加者同士の交流と和みのひとときが持たれた。

その後、審議事項の審議に入り、会長より以下の 1)～3)までの説明が行われ、すべて承認された。

1) 人事-広報担当役員の退任に伴う後任人事について。2) 2025 年の全国大会開催について。3) 本部研修「人間の尊厳に関する信仰宣言」について、であった。次に報告事項について、会長から説明が行われた。主な報告事項は看護大学との連携、CICIAMS 関連、顧問司祭委嘱状である。看護大学との連携について、陪席の清泉女学院大学稲葉教授から連携の有用性について発言があった。質疑応答が行われた後、会長より閉会宣言があり臨時総会は閉会した。

CICIAMS コーナー

◆CICIAMS 世界総会 GENERAL COUNCIL MEETING

2024 年 8 月 6 日 CICIAMS 世界総会が第 7 回アフリカ地域会議前日にケニア国ナイロビ市の Kenya School of Monetary Studies で現地時間 10:00 - 17:00 に開催され、議決権を有する清水会長が、同総会顧問であり札幌支部顧問のケネス・G・スレイマン神父と共に出席した。主な内容は会長、事務局長、世界 4 地区長(アフリカ、アジア、欧州、全米)、各専門委員会(財務、専門職、助産師、家族、規約、倫理)委員長、代表(国際連合 UK の経済社会理事会 ECOSOC、国連事務局グローバル・コミュニケーション局)からの報告が行われた。また、ジンバブエ国ブラワヨ大司教区のカトリック看護師会が準会員と承認された。さらに 2026 年 11 月 9-13 日のタイランド国での世界大会とそのテーマ「人間の尊厳と平和: 地球規模の変革の時」が承認された。最後に選挙管理委員 5 名が指名され、CICIAMS Executive Board Member (理事)投票が行われた。翌 7 日 19:00 から開票が行われ、本会清水会長がアジア地区長・理事に選出された。任期は 4 年。ケネス・G・スレイマン神父は 2022 年に総会顧問に選出されており、任期継続中である。

◆CICIAMS 第 7 回アフリカ会議

8 月 7 日～9 日のアフリカ地域会議では、清水会長が「Synodality for Japanese Catholic Nurses」、ケネス・G・スレイマン神父が、「Life and Work Balance(WLB)with Faith in God-Our wheel of life」を発表した。



図 1 会場は左手建屋 1 階とブレイクの中庭



図 2 会場の学校の門には銃を持つ兵士が待機



図 3 ナイロビ司教座聖堂



図 4 世界総会出席者



図 5 開会ミサの大司教を待つ参加者



図 6 ナイロビ大司教と日本からの参加者



図 7 ボスコボーイズ



図 8 ダンスになる聖歌を歌う聖歌隊



図 9 ミサ後に祝福を受ける新役員達



図 10 ダンスで司祭団を先導する少女達



図 11 札幌支部からアフリカ地区長へ寄附



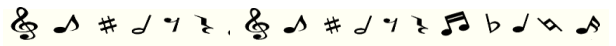
図 12 殆どの路側の店はテント



図 13 青空テントで靴の販売



図 14 閉会式で国際会長と新役員紹介 図 15 芋の食事



日本カトリック看護協会修会

「教皇庁教理省宣言 無限の尊厳——人間の尊厳について」
Dichiarazione Dignitas infinita circa la dignitas humana

期日 2024年11月16日（土曜日 14:00-16:00）



解説 バウロ暮林響本部顧問(名古屋支部)司祭

進行 清水裕子会長(CICIAMSアジア地区長・理事)

対象 本会会員・支部で承認された入会希望者の非会員

開催方法 オンライン（URLは各支部長経由で配信予定）

申込先 全国JCNA支部(<http://jcna.info/branch.html>)へ

問い合わせ jcna_secretariat@googlegroups.com

主催 日本カトリック看護協会本部

本部からのお知らせ

◆バチカン教皇庁文書 Dichiarazione Dignitas infinita circa la dignitas humana が 2024 年 4 月 6 日に発出され、同 10 日に CICIAMS、コーシ・ムステワ会長から、会員への周知が要請されました。同 8 月 5 日カトリック中央協議会から、教皇庁教理省宣言「無限の尊厳—人間の尊厳について」として和訳が公表されました。会員から、深く理解したいとのご意見が寄せられていましたので、2024 年 11 月 16 日 14:00-16:00 に本部主催研修会として本文書を学ぶ会を開催致します。進行は、清水会長、解説は暮林本部顧問司祭です。オンライン開催のため、ZOOM URL は支部を経由して配信します。

◆顧問司祭委嘱状について

8 月の臨時総会で承認を受けました表記について、各支部顧問司祭の在任期間の証書の送付を開始しました。教区長への説明文書も準備しております。支部からのご連絡をお待ちしています。

◆2027 年 5 月 3 日に創立 70 周年！[プラチナジュビリー・ワーキング]

記念事業として日本のカトリック看護をレビューする書籍の編纂を行います。プラチナジュビリー・ワーキングメンバーに、清水会長、石岡副会長、佐藤昇子札幌支部長、井坂玲子横浜支部長が指名されました。

◆在日外国人のための妊娠相談

表記について規程および実施細則を本部にて検討中です。カトリック関連医療機関やベトナム人司祭や修道女の協力を得て、当座はベトナム人技能実習生を対象として開始する予定です。

第 63 回全国大会のお知らせ



第 63 回全国大会は福岡支部が担当して下さいます。2025 年 9 月 14-15 日を念頭に久留米聖マリア病院を会場として開催されます。現在、杉本支部長を中心に聖マリア病院のチャプレン室とも協力しながら準備を進めています。

◎広報担当 に任命されました 前田明子氏

2024 年 9 月 1 日から本部指名役員（広報担当）に任命されました、札幌支部所属の前田明子と申します。全国大会を終えてホッとしていましたら、思いがけない役割をお受けすることになりました。これも神様のお計らいと受け止めております。

私は北海道旭川市生まれで、小学 4 年生の時に母親に連れられて洗礼を受け、教会の末席に座っております。看護基礎教育は札幌で受け、旭川市で臨床経験をした後、札幌で看護基礎教育に携って来ました。新しい役目は私にとって良い経験になると思いますので、役員の皆様にご協力いただきながら務めたいと思います。宜しくお願い致します。

編集後記

通信第 38 号は JCNA 札幌全国大会、CICIAMS アジア地域会議、アフリカ地域会議、CICIAMS 世界大会とグローバルな情報が満載され、私たちナースに躍動と歓喜を呼び起こす広報になりました。札幌大会の楽しい思い出がいつも脳裏に浮かびます。札幌支部の皆さんありがとうございました。



発行日 2024 年 11 月 1 日（金曜日）
発行責任者 清水 裕子
編集 日本カトリック看護協会本部
創刊年 1957（昭和 32）